

考古学から分かった

道具の移り変わり(1)

―栃木県内の事例を中心として―



縄文土器
(寺野東遺跡)



縄文土器
(清陵高校地内遺跡)

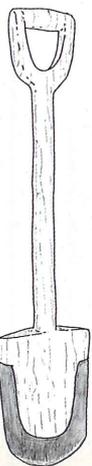


弥生土器
(清六Ⅲ遺跡)

大地の中には、私たちの祖先が生活していた痕跡(遺跡)がたくさん眠っています。文字資料のない原始時代、文字資料があっても地方の庶民の生活が詳しくは判っていない古代や中世でも、発掘調査によって器や武器、狩猟や農耕に使う道具等が遺跡から出土し、私たちに祖先が生活していたことを教えてくれます。

本セミナーでは、私たちにとって身近な物が、原始や古代などの昔にはどのような形をしていたのか、それがどのような変遷をたどったのか。栃木県内の発掘調査から出土した遺物を中心に取り上げて、形が変わることによどのような社会的な変化が考えられるのかを今年度と来年度の2か年で学びます。

まず今年度は、私たちの生活に欠かせない器(土器)や生業の道具について、同じ用途のものが時代を経てどのように変化していくのかをみていきます。



鍬復元図



鉄斧 (西赤堀遺跡)



鍬先 (黒袴台遺跡)



斧復元模型



鎌 (西赤堀遺跡)



鎌復元模型



須恵器
(権現山遺跡)

プログラム

第1回 9月6日①「土器の移り変わり(1)」

とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
調査課係長 江原 英

第2回 9月27日②「土器の移り変わり(2)」

とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
整理課副主幹 津野 仁

第3回 10月18日③「くらしの道具の移り変わり(1)」

とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
調査課副主幹兼課長 芹澤 清八

第4回 11月22日④「くらしの道具の移り変わり(2)」

とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
調査課係長 内山 敏行

実施期間 平成26年9月6日(土)～11月22日(土)
時間 13:30～15:30

会場 栃木県総合文化センター 第1会議室

受講回数 セミナーは全4回ですが、1回のみ受講でも受け付けます。

募集定員 各回100名程度です。

受講料 無料です。

申込期間 平成26年7月1日(火)から各回の開催日まで各回定員になるまで受け付けます。募集期間内でも各回定員になり次第受付を締め切らせて頂きます。

※講師の緊急の都合等により、プログラムを変更する場合があります。

※応募方法については裏面をご覧ください。

主催

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
一青少年の健全育成と県民文化の振興を目指します

お問合せ

公益財団法人とちぎ未来づくり財団 総務企画課
☎028-643-1011 (平日9:00～17:00)

平成26年度生涯学習セミナー「マロニエ文化学びのひろば」
考古学セミナー「考古学から分かった道具の移り変わり(1)－栃木県内の事例を中心として－」
アンケート結果より
第1～4回 受講者数89名 回答者数57名 回答率64.0%

(Q1)お住まい

宇都宮市内	32名	56.1%
宇都宮市外	23名	40.3%
県外	1名	1.8%
回答なし	1名	1.8%

(Q2)応募した動機についてお答えください。(複数回答可)

趣味・教養のため	51名	89.4%
職業に生かすため	2名	3.5%
地域活動やボランティア活動に生かすため	7名	12.2%
自ら取り組む学習対象を探すため	10名	17.5%
余暇の活用のため	18名	31.5%
その他	1名	1.8%
回答なし		

(Q3)1講座あたりの回数(回)についてお答えください。

適当だった	48名	84.2%
多かった		
少なかった	6名	10.5%
回答なし	3名	5.3%

(Q4)講座全体を通しての満足度についてお答えください。

満足できた	24名	42.1%
概ね満足できた	25名	43.8%
あまり満足できなかった	3名	5.3%
満足できなかった	1名	1.8%
わからない		
回答なし	4名	7.0%

〈御意見〉

- ・考古学は奥が広すぎ 毎回お楽しみになっています
- ・関係資料が豊富でとてもよかった
- ・県内外の出土品を紹介してもらい、自分で調べるのに参考になった
- ・考古学を学ぶことはとてもよい事と思います。毎回多くの方が受講されていて素晴らしいと感じます。この学びをどう活かし学び方、学ぶ姿勢をどう伝えるかを教える場としても活用されたら良いのではないかと感じています。
- ・パワーポイントの資料を配付していただけるのは、とても有り難いと思います。できれば、一旦PDFファイルに変更してから印刷していただくと少し大きく印刷できるので、更に見易くなると思いますので、ご検討を宜しくお願い致します。
- ・1回目:講話の全体像を示された上で詳細に講議していただき、充実した資料と併せとてもよかったです
- ・3回:道具の使用法を体系的に講議され、とても分かりやすく、新たな視点を学ばせていただきました。
- ・4回目:とても素晴らしい講議と感じました。理論的で分かりやすく、多くの説を的確に解説され、理解が進みました。次回も是非ご講議ください。
- ・1000年以上前のもづくりの工夫された工具が今に伝わっているのはおどろき

〈考古学セミナーで実施して欲しいテーマ〉

- ・道具から当時の生活の様子が話題になると嬉しい(この道具でこんな料理をしていたとか、こんなものを食べていたとか)
- ・古代の食事・食材と農業
- ・弥生時代にしぼった講座を開催してほしい
- ・埴輪・土偶について
- ・古墳と埋蔵品について
- ・当時の食生活について(どんなものを食べていたのか どんな食べ方をしていたのか)
- ・前期古墳と渡来土器との関連 特に那須の前方後方墳と東海地方の土器の読み取り方
- ・中世の城跡について
- ・古墳のはじまりと終わりに対する時代的・宗教的・民族的見地からの考察がほしい
- ・村落形成の様子
- ・災害関連①水害②地震③火山噴火④疫病流行 4回シリーズ
- ・栃木県や関東周辺の考古学に限定せず、日本全体の縄文～古墳時代の動きを中心にしたテーマで話をしてほしい
- ・古代、近世にも道路というものがあつたと思います。どのような道であつたのか、誰が整備していたのか
- ・弥生時代、古墳時代の食生活について
- ・下野の古墳時代の概要
- ・群馬県の日本のポンペイと言われる黒井峯や最近発掘の状況3～4回で。とくに噴火及び埋もれたものが今発見された貴重な状況を。その時代の栃木県内の発掘作業と比較して。(※地道な成果に見映えのある成果を)
- ・前方後円墳の変遷
- ・通説をくつがえす発掘結果や文献、遺物の発見等があつたら解説やそれによる通説の修正や補足等を知りたい
- ・石器・土器・骨角器 編年、特に旧石器時代の石器・縄文・弥生時代の骨角器の出現の種類・形態 骨角器の編年的変化、地域的变化は？
例 骨鈹、つり針、骨さじ状 etc
- ・土器、須恵器、土師器の特色と出土例(県内の出土例を含めて、全国的に比較)
- ・古墳の被葬者について
- ・縄文、弥生時代から奈良時代までに至る歴史の移り変わり